

幼児教育センター「ことばの教室」から、ことばや正しい発音を促す遊びを紹介していきます。ぜひお家の方も一緒に楽しみながらやってみてください！

～うがいをしよう～

お子さんはうがいができますか？ブクブクうがいをする時は、唇をギュッと閉じ、頬を動かします。うがいをするだけでも、口や舌の力を鍛えるきっかけになりますので、お家の方も一緒に取り組んでみてはどうでしょう。

- ぶくぶくうがい** 口をしっかり閉じて、ブクブクブク～と頬を動かしながら、うがいができるかな？
- ポイント ✓口をしっかり閉じている？
✓鼻で息をしている？

☆もっとチャレンジ☆

- 水を使わず、空気でエアーぶくぶくうがいができるかな？頬を膨らましてプクプク動かしてみよう！
- ガラガラうがいにも挑戦してみよう！（むせることもあるので、口に入れる水は少しで無理ない範囲で。）
- ブクブクうがいたあと、ピュ～っと水を細く噴き出せるかな？（周りが濡れることが気になるときは、お風呂場でするとよいですよ。）

～乳幼児期の育ちを考える～

『どっちが好き？』

きょうだいの誕生は、親の愛情を独り占めしていたところにライバルが突如現れます。妊娠時期から話を聞いて理解していても“こんなはずではなかった”と程度の差こそあれ、子どもは思うものです。物理的にあかちゃんに手を取られますから、様々な表現をして自分の存在をアピールします。

感情が複雑に分化してくる4歳頃になると親の愛情を言葉で測る事もしてきますね。

「(自分と下の子と)どっちが好き？」と聞かれたらどう答えましょうか。

どちらの子にも「あなたが一番好き」と言って良いのです。一番は一つではないんですね。

保育所、幼稚園などで考えてみてください。愛情に順番はなく、職員皆で『どの子もいちばん大切』と思って接しています。

自分が大事にされるのと同じ位、人が大事にされているのを身近で見て感じる事が精神の安定と共に心を豊かにしていきます。これ、大事なんです。

自尊感情

世界の中で日本人の自尊感情が低い事は知られています。謙遜・謙虚が美徳で横並びの文化も関係しているでしょう。ただ乳幼児期に『自分は愛されている』(安心基地)『必要な存在である』(存在意義)『何でもできる』(万能感)『失敗してもできなくても大丈夫』(自己肯定)、この心を育てる事が学習意欲へとつながっていきます。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。
夢と希望のもてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。